

平成 26 年度 安全工学会 玉置功労賞

受賞者 仲 勇治氏

選考理由

仲勇治氏は 1970 年大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程を修了され、同年に京都大学大学院工学研究科博士課程に進学、翌年京都大学工学部化学工学科助手になりました。その後、1981 年に東京工業大学資源化学研究所助教授、1993 年に同教授、2010 年に同所長に就任され、2011 年に定年退職され、同大学名誉教授となりました。現在は、国立研究開発法人科学技術振興機構においてプログラムオフィサーを務めておられます。

仲氏はプロセスシステム工学を専門とされ、蒸留システム構成、省エネルギー化技術、運転設計、統合化技術、社会技術システム構成など化学プロセスシステムから社会システムまでを対象として設計、運用、保全について研究されました。この研究の流れに沿って安全に関わる研究を様々な角度から行ってこられました。1980 年代半ばにはヒートポンプ付き蒸留システムのスタートアップ手順の導出やプロセス制御システムの制御仕様を決める論理を分析・整備し、HAZOP 支援やその検討結果の活用について研究されました。この研究の流れは、同氏の代表的な業績である安全管理システムのフレームワーク構築に繋がっています。さらに、生産管理と安全管理の融合を進める論理体系へと発展しております。

プロセス安全管理の仕組み構築のためには、プラント ライフサイクル エンジニアリングの視点が重要であるとして、統合化技術の考え方を導入した安全管理の枠組みを提言し、技術的な枠組みに整理してこられました。1990 年頃から多くの企業と一緒に、エンジニアリング業務の分析を始め、2010 年頃に実際に活用できる業務モデルを発表されました。この業務モデルを基にして、培った経験を共有したり、業務間の連携や技術標準を整備したりする仕組みを提言されてきました。さらに、この業務モデルによって個々の業務内容を明確にされ、それらの業務支援ツールを開発してこられました。

ここに至るまで、知的生産システム（IMS）国際プログラムや、STEP の標準化、日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業に参加され、10 年以上継続した国内外の産業界との共同研究によって安全管理システムの発展と普及に貢献されました。これらの成果は、プロセスシステム工学国際会議、欧州コンピュータ支援プロセス工学会議、米国 CCPS プロセス安全会議、Loss Prevention 国際会議などで発表されました。最近では WCOGI2014 で基調講演をされました。

同氏は、2010 年からは安全工学会副会長、会長を務められ、また化学工学会安全部会部会長も歴任されました。社会的にも、原子力安全委員会委員を長く務められ、また高圧ガス保安協会や厚生労働省労働安全衛生研究所のプロジェクトにおいては、現在も学識経験者として安全管理に関わる活動を続けておられます。

以上のことから、同氏は安全を担保する生産管理システムの構築と普及に関わる活動を継続して行い、国際的に安全工学の発展に貢献されたことは玉置功労賞にふさわしいといえます。

受賞者 仲 勇治 氏 略歴

1970 年 大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程修了

同 年 京都大学大学院工学研究科博士課程

1971 年 同中途退学

同 年 京都大学工学部化学工学科助手

1979 年 英国リーズ大学化学工学科研究員

1981 年 東京工業大学資源化学研究所助教授

1993 年 東京工業大学資源化学研究所教授

2010 年 東京工業大学資源化学研究所所長

2011 年 東京工業大学定年退職

同 年 東京工業大学名誉教授

同 年 国立研究開発法人科学技術振興機構プログラムオフィサー

現在に至る